

「霊に生きる」 ～あなたは何を見えていますか？～

創世記6：5-22
(ヘブル11：7)

あなたは今までに、自分のとった行動に対して思っていた反応が相手から返ってこなかったことはありますか。そのとき、「何でそうなの」とか「そんなつもりじゃなかったのに」と、腹を立てたり落ち込んだりしたことはありますか。これは自分と相手との見方、考え方の違いから生じてくるものですが、これは身近な人であればあるほど起こりやすくなることを知っているでしょうか。それは近い人ほど今までの経験や感情からこうなるであろうと思い込み、その時の本当の姿を見ることができなくなってしまうからです。今日はノアの行動からメッセージを語ります。(創6:5-22) 今、ある国でノアの箱舟が発見されています。山の上だったので現存できたのではないかとわれています。また、オーストラリアにはエアーズロックがあります。ここは地質年代表をつくる元となるものですが、ここから創造論者は万物を神が創造されたのは事実であると語ります。なぜならこの地層の浅いところ、深いところで発見されるたくさんの化石から、その当時の生物が神様からどのような情報を得てどのように生活を営んでいたかを私たちがうかがい知ることができるからです。そして、生物は今も神様からの情報を得て生きています。例えば蛍。蛍はある時期になると土の中から出てきてある時期になると一斉に飛び立ちます。いつどのようにして蛍はその時を知ったのでしょうか。ここから生物が意識的、経験的に学んだのではなく、生命を守るために神様から送られてくる情報、神様が創造された自然から時を感じ取っていることがわかります。私たち、人は自分の親を意識してこの人は親だ、と自分に言い聞かせるようなことはしません。また自分と少しでも一緒に時を過ごした人は、自然と自分に近い人(仲間)と思います。私たちが神様を信じたときも、具体的にこういうことがあったから信じたというのではなく、気が付いたら信じていたのではないのでしょうか。このように人と人との関わりは私たちの深いところにあるものが結びつけているのです。しかし生物と違い私たちは生きていくうちにいつの間にか神様からの情報でなく、人の態度や言動をみて日々を過ごすようになってしまいました。そして周りの人の言動や態度で自分の心を右往左往させてしまうようになりました。それではいけません。真に受けて落ち込んだり腹立たしく思ったりするのはなく、「なぜ、そのような行動をとってしまったのか」と見方を変えて、霊で判断していかなければなりません。イエス様は罪人を招き、病人を癒すために来られました。あなたがたはわたしの弟子ですと言われました。ならば私たちはあの人からこう言われた、許せない、と職場や自分の関わるところでそういう態度をとることをもうやめなければいけません。分かっているもお互い素直になれないということもあります。しかしその人のとった行動を責めながら、自分も同じことをしてはいけません。また、被害者意識を持ってしまってもいけません。自分の願ったとおりにならないことは多々あります。なにもしないのに文句を言う人。自分のことは棚に上げて人の悪口を言う人。そういう人はたくさんいます。しかし、同じような態度でもそうなる理由は千差万別ですから、私たちはそれをすべて一緒にして、あの方はこういう人と決め付けてしまったりその人と関わることを拒否したりしてはいけません。これからは、どうしてその人がそのような行動をしてしまったのか、その人の内側から出てくる痛みを感じ取り、それを私たちが自分に任された人たちに愛を伝えるために用いていかなければいけません。私たちが霊に生きるために次のことを実践していきましょう。真髓を見抜くために**①血肉を捨てる(1コリ15:47-50)** 神様は人を言葉や態度など目に見えるもので判断する者でなく、霊で感じる者として創造されました。しかし、人は生きていく間に朽ちないもの(目に見えないもの、霊の感覚)ではなく朽ちるもの(目に見える言動や行為)で判断してしまうようになってしまいました。あなたは相手の反応や態度によって思ってもいないことを口にしてしまったことはないでしょうか。もし真実でないことを言ってしまったことがあるなら、同じようにあなたに対して言った相手の言葉も真実なのか感情的になって言ってしまったことでなかったか、血肉によらず判断しなければいけません。その人が昔受けた傷、恐れまた経験などのその行動を起こさせてしまう種、原因を突き止めていきましょう。また、あなた自身が血肉によって自分を傷つけるのをもうやめなければいけません。人はどんなに仲良くなっても、悪いことをしたり裏切ったり傷つけたりする生物です。でもなぜそれをしてしまうのか、それが分かればその人のことを受け入れることができます。自分と一緒にだからです。自分を傷つける人を排除し続けて、行き着く先は孤独です。それは悪魔の計画です。もう周りから傷つけられるという概念をとらなければいけません。もっと大きく構えて、いつも神様の目で見なければいけません。だからもし嫌なことがあって傷を負ったならば神の御前に出て、重荷を下ろしましょう。自分の経験や感情で判断し決め付けるのではなく、霊で判断しましょう。いつも朽ちない神のみことばを握って歩みましょう。**②相手を誤らない(エペソ6:12-18)** 売り言葉に買い言葉という言葉があるように、私たちは相手の態度に対して宣戦布告をしまいます。でもそれは戦う相手が違います。私たちの本当の敵はその人の心の中にある問題です。人と戦うのではなく、その人を悪い方向へ持っていかこうとするものと戦いましょう。**③祈りを怠らない 祈りは心のもとし火** その人のことを真剣に祈っていればその人の問題点がわかります。もし今、嫌だなと思う人がいるならば、その人に心を向けてその人がとってしまった態度の原因を考え、神様に聞きましょう。そしてその人の心が癒されるように祈りましょう。また、自分自身もその人と同じようなことをしていると気づいたならば、その弱さを忍耐に変えてくださいと祈りましょう。あなたが正しく行えば相手も正しく行うことができ、あなたの周りが変わります。謝っている相手には許すことしかできません。反対にあなたが刃を向けば相手も傷つかないように刃を向けるしかありません。しかしイエス様はそんなあなたのために代わりに刃を向けられても刃を向けることをしませんでした。あなたができないことを知っておられるからです。今日で血肉に生きることをやめましょう。心が堅くなって悪口しか言えない人ではなく、心がいつも愛に満たされている人となりましょう。人は生きていく間、いつも目や耳から入る情報や他者の言葉によって心を支配されそうになります。だからこそ霊に生きることが大切です。ノアが大きな箱舟を作ったことは、周りの人から見ればあまりにばかげたことだったでしょう。しかしノアは人々の声を聞くのではなく神様の声を聞き、命じられたとおりに行いました。そしてノアの歴史が聖書に刻まれました。私たちも周りの声に右往左往することなく過去の経験や感情を捨て、神様の声を敏感に受け取り行う人となりましょう。(要約者：金光 瞳)